

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公表番号】特表2001-519700(P2001-519700A)

【公表日】平成13年10月23日(2001.10.23)

【出願番号】特願平10-542912

【国際特許分類第7版】

A 6 1 F 2/08

【F I】

A 6 1 F 2/08

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月4日(2005.4.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

# 手続補正書

平成17年 4月 4日

特許庁長官殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第542912号



2. 補正をする者

氏名（名称） バーンズージューウィッシュ・ホスピタル



3. 代理人

住所 〒540-0001  
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル  
青山特許事務所  
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葵



4. 補正対象書類名 明細書および請求の範囲

方式  
審査



5. 補正対象項目名 明細書および請求の範囲

## 6. 補正の内容

### I. 明細書の補正

(1) 第1頁の第6行、第7行、第17行、第18行、第21行および第24行、第2頁の第6行、第13行および第23行(2カ所)、第3頁の第1行、第11～12行および最終行、第4頁の第2行、第3行(2カ所)、第5行、第7行、第12行、第13行(2カ所)、第25行(2カ所)、第26行および第27行、第5頁の第8行、第6頁の第24行、第9頁の第16行、第10頁の第16行、第17頁の第14行および第15行にそれぞれある「間接」を、すべて『関節』に訂正する。

(2) 第6頁の第24行に2カ所ある「@足場@的特性」を、両方とも『構造的特性』に訂正する。

(3) 第28頁の表3の最下段左欄の「アグレカン」を『アグリカン』に訂正する。

### II. 請求の範囲の補正

別紙の通り。

以 上

(別紙)

## 請求の範囲

1. 実質的に連続的な不溶性グリコサミノグリカンおよびコラーゲン富化ヒアルロン細胞外マトリックスによって包囲された、軟骨細胞成熟の別個のゾーンに分離しているのではなくランダムに組織化された複数層の細胞を有する、ビグリカンを実質的に含まない軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。
2. 膜リン脂質がメド酸を富化したものである請求項1記載の組成物。
3. 膜リン脂質のメド酸含量が、該膜リン脂質の総脂肪酸含量の少なくとも約0.4%である請求項2記載の組成物。
4. リノール酸が欠乏した膜リン脂質を含む軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。
5. 膜リン脂質のリノール酸含量が、該膜リン脂質の総脂肪酸含量の約0.5%未満である請求項4記載の組成物。
6. 膜リン脂質のリノール酸含量が、該膜リン脂質の総脂肪酸含量の約0.2%未満である請求項4記載の組成物。
7. アラキドン酸が欠乏した膜リン脂質を含む軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。
8. 膜リン脂質のアラキドン酸含量が、該膜リン脂質の総脂肪酸含量の約0.5%未満である請求項7記載の組成物。
9. 膜リン脂質のアラキドン酸含量が、該膜リン脂質の総脂肪酸含量の約0.2%未満である請求項7記載の組成物。
10. 軟骨が、内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まない請求項2記載の組成物。
11. 軟骨が、OH-プロリン1mg当たり少なくとも約400mgのS-GAG含量を有する請求項2記載の組成物。
12. 軟骨が、OH-プロリン1mg当たり約800～約2500mgのS-GAG含量を有する請求項2記載の組成物。
13. 軟骨が、I、IIIおよびX型コラーゲンを実質的に含まない請求項2記

載の組成物。

14. ビグリカンを実質的に含まないマトリックスを含む軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

15. 高分子量アグリカンが富化した軟骨を含んでなる請求項2記載の組成物。

16. 高分子量アグリカンが、軟骨の総プロテオグリカン含量の少なくとも約80%を構成する請求項15記載の組成物。

17. 高分子量アグリカンが、軟骨の総プロテオグリカン含量の約90%を構成する請求項15記載の組成物。

18. 軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物であって、

- (a) メッド酸を富化し、かつリノール酸およびアラキドン酸を欠乏させた膜リン脂質を含むこと、
- (b) 高分子量アグリカンを富化したこと、
- (c) 内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まないこと、
- (d) ビグリカンを実質的に含まないこと、

を特徴とする組成物。

19. 軟骨が、連続的な不溶性グリコサミノグリカンおよびビグリカンを含まないコラーゲン富化ヒアリン細胞外マトリックスによって包囲されている複数層の細胞を有することをさらに特徴とする請求項18記載の組成物。

20. 軟骨が、実質的に連続的な不溶性グリコサミノグリカンおよびリノール酸とアラキドン酸の両方が欠乏したコラーゲン富化ヒアリン細胞外マトリックスによって包囲されている複数層の細胞を有することをさらに特徴とする請求項1記載の組成物。

21. 軟骨が、I、IIIおよびX型コラーゲンを実質的に含まない請求項1記載の組成物。

22. 軟骨が、リノール酸が欠乏した膜リン脂質を含むことをさらに特徴とする請求項1記載の組成物。

23. 軟骨が、アラキドン酸が欠乏した膜リン脂質を含むことをさらに特徴とする請求項1記載の組成物。

24. 軟骨が、内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まない請求項1記載の組成物。

25. 軟骨が、高分子量アグリカンを富化したものである請求項1記載の組成物。

26. 軟骨が、X型コラーゲンを実質的に含まない請求項1記載の組成物。

27. 膜リン脂質を含み、軟骨細胞成熟の別個のゾーンに分離しているのではなくランダムに組織化された複数層の細胞を有する軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物であつて、

(a) 該膜リン脂質が、メド酸を富化し、かつリノール酸およびアラキドン酸を欠乏させたものであること、

(b) 該軟骨が、高分子量アグリカンを富化したものであること、

(c) 該軟骨が、内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まないものであること、

(d) 該軟骨が、ビグリカンを実質的に含まないものであること、

を特徴とする組成物。

28. 軟骨が、IIIおよびX型コラーゲンを実質的に含まない請求項27記載の組成物。

29. 細胞が、実質的に連続的な不溶性グリコサミノグリカンおよびコラーゲン富化ヒアリン細胞外マトリックスによって包囲されていることをさらに特徴とする請求項27記載の組成物。

30. 軟骨が、I、IIIおよびX型コラーゲンを実質的に含まない請求項27記載の組成物。

31. メド酸を富化し、内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まない軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

32. メド酸を富化し、リノール酸およびアラキドン酸を欠乏させた軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

33. メド酸および高分子量アグリカンを富化した軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

34. 内皮、骨および滑液細胞ならびにI、IIIおよびX型コラーゲンを実質

的に含まない軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

35. 高分子量アグリカンを富化し、内皮、骨および滑液細胞を実質的に含まない軟骨の有効量を含んでなる医薬組成物。

36. 高分子量アグリカンが、軟骨の総プロテオグリカン含量の少なくとも約80%を構成する請求項27記載の組成物。

37. 高分子量アグリカンが、軟骨の総プロテオグリカン含量の約90%を構成する請求項27記載の組成物。

38. 軟骨が、OH-プロリン1mg当たり少なくとも約800mgのS-GAG含量を有する請求項27記載の組成物。

39. 軟骨が、OH-プロリン1mg当たり約800～約2500mgのS-GAG含量を有する請求項27記載の組成物。